

チームとしての「勝ち」

男子バドミントン部 高崎 悠晴



私たち男子バドミントン部は、全県総体を「勝ち」進み、10年ぶりにインターハイに団体出場することができました。結果は1回戦敗退でしたが、最高の思い出になりました。1、2年生にとっては今後につながる大きな経験にもなったと思います。私は去年も個人でインターハイに出場しましたが、大会を終えて、やはりインターハイは団体で出場することに「価値」があると強く思いました。後輩たちには来年もインターハイ団体出場、そしてその上を目指して頑張ってくださいです。これまで支えてくださった皆さんの方々に感謝したいと思います。本当にありがとうございます。

経験を生かし来年に向け追い込み

柔道部 高橋 青狼



8月9日に北海きたえーるで行われた全国高校総体に出場してきました。結果は2回戦敗退という、悔しい結果で終わってしまいました。また、今回の大会で、全国トップクラスの選手たちとの差を痛感しました。心技体共に、まだまだ劣る部分があるので今回の経験をこれからの練習に生かしていきたいです。インターハイはあと1回しかないのので悔いのないように、あと1年追い込んでいきたいです。支えてくださった方々、応援してくださいました。来年は結果で恩返しできるように頑張ります。応援ありがとうございます。

『伝える』

放送委員会 塩畑 陽貴



放送委員会は第70回NHK杯全国高校放送コンテスト、2023がごしま総文放送部門の2大会に出場した。短い準備期間のなか、4年ぶりの通常開催と変わらない規模の大会に張り切って臨んだ。結果からいうと、上位入賞はかなわず満足のいくものとはならなかった。しかし、全国の舞台で多くの声に触れたことで改めて「伝える」ということの難しさや楽しさを知り、その種類の豊富さにも気付けたと思う。本番での発表はわずか数分、その数分間のために何週間・何カ月も準備を重ねる。後輩には次の大会で満足のいく結果を残せるように、その一瞬に「伝える」ただそのために今回の経験を生かして活動を続けていってほしい。

悔しさと達成感が交錯

囲碁部 鎗目 咲陽子



囲碁部の部室にはとても立派な碁盤がいくつかあります。いろいろなご縁からOBの方などに頂いたもので、それに合わせて今年から部室に畳も導入し、立派な碁盤に釣り合うような練習環境が整いました。全国大会では、試合の間などに囲碁の先生や部員と碁盤の振り返りをして次の試合に生かしていく様子がたくさん見られました。思考力や失敗を次に生かしていく力が身に付くのも囲碁の魅力だと感じました。個人的には悔しさも達成感も同時に心に残りますが、この貴重な経験をこれから的人生に生かしていければと思います。